馬耳東風

富士山は，2013年にユネスコ世界遺産委員会により「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録された．江戸時代からの富士講に代表される信仰と浮世絵を始めとするさまざまな芸術を育んだ富士山は，人と自然の共生を象徴し未来に受け継ぐべき世界の宝である．世界文化遺産に登録されて11年目の今年，富士登山が大きく変わろうとしている．富士山の吉田ルートの山開きである今年7月1日から新たな入山規制が始まったからである．吉田ルート五合目の登山道入口にゲートが設けられ，山小屋の宿泊予約がある人を除き午後4時から翌日午前3時の時間帯は閉鎖される．また，登山者が1日当たり4,000人を超える場合も閉鎖される．更に，このゲートを通過するにあたって，登下山道の使用料（通行料）という名目で一人1回につき2,000円が徴収され，従来からあった富士山保全協力金1,000円（任意の寄附金）と合わせて，最大3,000円を負担することとなった．登山者は，事前にWeb上で登山日を指定して通行料を支払うか，登山当日に五合目の受付窓口で通行料を支払うこととなる（約1,000人の当日枠があるとのこと）．登山では悪天候が予想され日程を変更することはよくあるが，支払ったお金は戻されることがなく，変更する日にちに新たに支払うことになるので注意が必要である．

そもそもこのような入山規制は，登山者が多すぎて山の環境や景観を損なっている，あるいは山小屋に泊まらず徹夜で登るいわゆる弾丸登山で高山病や低体温症になる人が多発していることから設けられることとなった．山梨県知事は，このままでは富士山の世界文化遺産としての登録が取り消される恐れがあるので導入したと述べている．

登山時に入山料や協力金を要する山は富士山以外にもある．例えば日光の男体山に登るには，登山口の二荒山神社中宮祠に登拝料として1,000円を奉納しなければならない．屋久島の縄文杉を見に行く人には登山口まで行くバスの切符売り場で環境保全協力金として1,000円が徴収される．これらと比較すると富士山はいささか高額であるが，念願の富士登山を計画している人たちは，この金額のせいで断念することはないだろう．

ちなみに海外の入山料は，エベレストで110万円と別格であるが，アフリカのキリマンジャロで約9万円，北米のマッキンリーは約4万円とのことである．これらとの比較で，ある登山ガイドは富士山では日本人1万円，外国人3万円が適当と述べている．さすがにこの額となると，入山規制としての効果が出るだろうし，軽装で安易に登山をしようとする人々も減るだろう．

ところで，富士山の登山ルートには，山梨県側の吉田ルート以外に静岡県側に須走，御殿場及び富士宮の3ルートがあるが，静岡県では協力金の1,000円のみである．山梨県と静岡県で異なる入山規制では実効性が危ぶまれると思ったが，静岡県側の登山ルートのほとんどが国有地であるため，山梨県と足並みを揃えられないとのことである．人類共通のかけがえのない財産として，国際的に保全し，未来に残すことが求められている富士山である．国や県の垣根を越えて知恵を絞ってほしいと，富士山に登って魅せられた一人として切望する．　（平）